

## 執筆・投稿規定

1. 原稿の内容は未刊行のものに限る。執筆者（主著者）は、関西大学心理臨床センターの臨床指導員、元臨床指導員、相談員、関西大学大学院心理学研究科心理臨床学専攻の学生、これまでに本学大学院において臨床心理学関連専攻を修了した者とする。その他の著者については、編集委員会が本心理臨床センターの活動に寄与すると認める場合、掲載することができる。

執筆者は、論文の内容および研究方法について、人権の尊重に責任を持ち、可能な限り対象者の了解を得、事例については記載する情報を最小限にして、プライバシーの保護に十分配慮すること（イニシャルは実際のイニシャルではなく ABC を順に用いて略記表示する、面接経過・期間は X 年、X + ○年として表すなど）。研究・論文作成上の配慮の方法に関しては、『関西大学大学院心理学研究科心理臨床学専攻専門職学位課程 心理臨床実践活動・研究倫理綱領』および『関西大学大学院心理学研究科 研究・教育倫理綱領』に則ること。

2. 原稿は原則としてワープロ入力で作成すること。A4（縦）用紙に横書きとする。日本語の論文は常用漢字・現代かなづかいを用い、数字は算用数字を用いること。読点は「、」、句点は「。」とする。
3. 論文は、1 ページ 1200 字（40 字×30 行）とし、上限 14 枚以内とする（付記、謝辞、引用文献を含む）。ただし、編集委員会が認める場合はこの限りではない。図表・写真等はその大きさを本文に換算して枚数に算入すること。
4. 論文とは別に、表題・著者名・所属・要約（600 字以内）・キーワード（5 項目以内）を別紙に記載して論文と共に提出する。
5. 図表や写真は別紙で用意し、図 1、表 1 など通し番号をつけ、それぞれに題と内容を原則として和文で記すこと。図の題はその下部に、表や写真の題はその上部に付ける。また、本文中の挿入箇所を明示すること。
6. 原稿提出は電子データファイルのみで行う。データファイルは MS-Word 形式とする。
7. Th・Cl・SC などの略語は、記述が重複して煩雑になるのを避けるために用いる場合のみ、初出の際にその略語の意味を明示した上で使用すること。
8. 外国の人名、地名等の固有名詞は原則として原語を用いる。その他の外国語はなるべく訳語を用いること。外国語を用いる場合は、初出の際、訳語に引き続いて（ ）をつけ示す。

9. 本文中に引用文献を記載する場合は、引用した箇所を日本語の場合は鉤括弧「 」、外国語の場合はダブルクォーテーション “ ” で括って明示すると同時に、著者名と刊行年をカッコで記載すること。訳本の場合には、原典の発行年と訳本の発行年を（ / ）で併記する。著者が複数いる場合は、初出では3名までは著者名を挙げ、それ以降は和文献であれば“ら”、洋文献であれば“et al.”を用い、省略して記載する。本文中に著者名や刊行年を括弧で示す場合は、括弧は全角とする。括弧内に著者名と発行年を入れる場合には、その間にコンマを入れる。ただし、和文の文献の場合は全角のコンマを、海外の文献の場合は半角のコンマを入れる。なお、同じ3名以上の著者の文献の引用が本文中で2回目以降の場合は、第1著者のみを入れて略す。

(例えば、初出：山川・菅野・高森ら（2014）→2回目以降：山川ら（2014）、のように）。

10. 引用ではなく人の発言を示したり、読みやすくしたりするために（例えば、因子名を示すなど）は、当該の箇所が日本語の場合は「 」、外国語の場合は“ ”で括って明示する。

11. 引用文献の仕方は次の通り。論文の最後に著者名のアルファベット順に一括して記載する。

①和文雑誌論文の場合：著者名（刊行年）論題，誌名，巻（号），頁.

例 三宅麻希・池見陽・田村隆一（2007）5段階体験過程スケール評定マニュアル作成の試み，人間性心理学研究，25(2)，115-127.

②和文単行本の場合：著者名（刊行年）書名，発行所.

例 宮城音弥（1979）精神分析入門，岩波新書.

③和文編集本の中のある章の場合：著者名（刊行年）論題，編者名（編），書名，発行所，引用頁.

例 五味義夫（1985）青年理解と適応指導，藤原喜悦（編），青年心理学，鷹書房，110-117.

④和文編集本の場合：編著者名（編）（刊行年）書名，発行所.

⑤和訳された単行本の場合：原著者名（原著書の刊行年），原著書名（※斜体で），発行所，翻訳者名（訳）（翻訳書刊行年）翻訳書名，発行所.

例 Merleau-Ponty, M. (1962). *The Phenomenology of Perception*, London; Routledge. 竹内芳郎（訳）（1967）知覚の現象学，みすず書房.

⑥和訳された編集本の中のある章の場合：原論文の著者名，（原著書の刊行年），原論文の題名。In 原著書の編者（Ed.），原著書名（※斜体で），原著書の発行所，原論文の頁。（翻訳者名（訳）（翻訳書刊行年）翻訳書名，翻訳書の発行所，翻訳本中の章の頁。）※複数編者の場合には（Ed.）でなく（Eds.）。

例 Merry, T. (2003). Classical Client-Centred Therapy. In P. Sanders (Ed.), *The Tribes of the Person-centred Nation*, Ross-on-Wye, PCCS Books, 21-31. (近田輝行（訳）（2007）パーソン・センタード・アプローチの最前線，コスモスライブラリー，33-46.)

- ⑦海外の雑誌の場合：著者名，刊行（原著書の刊行年）．論題，誌名（※斜体で），巻（号），頁．  
例 Krycka, K. (1997). The recovery of will in persons with AIDS. *Journal of Humanistic Psychology*, 37(2), 9-30.
- ⑧海外の単行本の場合：著者名（原著書の刊行年）．書名（※斜体で），発行所．  
例 Rogers, C. R. (1980). *A way of being*, Boston, MA: Houghton Mifflin.
- ⑨海外の編集本の中のある章の場合：著者名．（原著書の刊行年）．章の論題． In 原著書の編集者（Ed.），原著書名（※斜体で），原論文の頁，原著書の発行所．※複数編集者の場合は（Ed.）でなく（Eds.）．  
例 Greenberg, L. & Elliot, R. (2001). Process-Experiential Psychotherapy. In Cain, D.J. & Seeman, J. (Eds.), *Humanistic Psychotherapies: Handbook of Research and Practice*, 279-306, Boston, MA: Houghton Mifflin.
- ⑩海外の編集本の場合：編著者名．（Ed. または Eds.）（原著書の刊行年）．書名，原著書の発行所．
- ⑪インターネット上の資料からの引用の場合：著者または団体名（最終更新年または作成年）「ヘッダー名」 URL（※最終更新年または作成年がわからない場合：著者または団体名「ヘッダー名」 URL（引用者自身の最終アクセス年月日現在））と記載する．  
例 NHK「ゲスト紹介」 <http://www.nhk.or.jp/guest.html>（2002年10月28日現在）
- ⑫英文で論文を投稿する場合は、A4（縦）用紙1枚につき約300語で図表を含め14枚以内とする。

12. 印刷上特別の費用を要する事情が生じた場合は、当該執筆者が負担する。
13. その他の執筆の詳細については日本心理臨床学会『心理臨床学研究』執筆要項に準拠する。
14. 原稿の採択は関西大学臨床心理専門職大学院 心理臨床センター紀要編集委員によって決定を行う。
15. 投稿した論文のうち、事例研究を除く論文は、特に申し出がない限り、関西大学学術リポジトリに登録される。もし、学術リポジトリへの登録をしたくない場合は、執筆者はその旨を論文投稿時に編集委員会に申し出ること。

以 上